



研究だより

各学部、寄宿舎の取り組みを紹介します。

佐賀県立唐津特別支援学校
2025(令和7)年10月発行
研究部 第2号

小学部

1. 1学期の取り組み

(1) 共通理解した内容

○5月の合同学部研において、マンダラチャートを活用して実際の単元について話し合いを行い、担任団で具体的で面白いアイデアをたくさん出し合った。また、ほぼすべての学級がマンダラチャートで出たアイデアを授業づくりに生かすことができた。

(2) 授業実践において取り組んだ内容(6月単元)

○学部研の時間を使って、単元初め、単元中、単元後で単元に含まれる各教科等の目標・内容についての検討や振り返り、「個人のねがいシート」についての検討や振り返りを行った。時間を確保することで、どの学級もじっくり話し合うことができた。

○各学級で単元に含まれる各教科等の目標・内容を検討する際に悩みや気付きなどを出し合い、グループ協議、全体共有を行った。各グループから出た具体的な考え方を共有することで、各教科等を合わせた指導についての学びの深まりにつながった。

2. 今後に向けて

遊びの指導において小学部合同単元を取り上げ、遊びの指導の概要、各教科等の目標・内容について研修を行い、共通理解を図る。また、11月単元でも学部研の時間を使って担任団で十分に話し合い、多様な視点で協議する場を設ける。

中学部

1. 1学期の取り組み

○第1回学部研究会

・『授業計画シート』や『個人のねがいシート』の活用の仕方、中学部の今年度の取り組みについて共通理解を図った。

○第2回合同学部研究会

・マンダラチャートを活用して、前期単元について各学級で話し合いを行った。

○第3回学部研究会、第4回学部研究会

・「できる状況づくり」や「授業づくりの進め方」について共通理解を図った。

・『授業計画シート』や『個人のねがいシート』を活用し、事例対象生徒の様子を適切に見取り、様子に合ったねがいが立てられているかについて各学級で話し合いを行った。

○第5回学部研究会

・グループごとに前期単元の振り返りを行った。

○第6回学部研究会、第7回学部研究会

・各学級が前期単元について実践発表を行った。グループ協議によってでた意見や感想の交換を行い、それらを学部全体で共有した。

2. 今後に向けて

・「できる状況づくり」についてより深く共通理解を図る。

・後期単元は前期単元の成果や課題点を活かし、前期同様学部研の中で話し合いの時間を多く取り入れながら、授業づくりを行っていく。

高等部

1. 1学期の取り組み

高等部研究の柱

①「できる状況づくり」の充実を図るための、適切な見取りとねがいの設定

②個人のねがいに含まれる各教科等の目標及び内容の共有

7月の生活単元学習において、「授業作りの進め方」に沿って授業づくりを行った。その際、上の二つの柱に沿って研究を進めた。

～取り組みの成果～

柱①では、様子を適切に見取ること、個人の「ねがい」を具体的に考えることなどを確認できた。柱②では、高等部の学習指導要領だけでなく、小、中の学習指導要領も確認することで、より生徒の様子にあった各教科等の目標、内容が明確にできた。

2. 今後に向けて

12月の生活単元学習に向けて、授業づくりを進めたり、道具の工夫を行ったりする時間の確保として、研修内容の精選や研修の持ち方なども検討しながら研究を進めていく。

寄宿舎

1. 1学期の取り組み

(1) 研修会の実施

○第1回研修会

・R5.6年度の取り組みの中で明らかになった課題・成果および今年度の取り組みについて改めて共通理解を図った。

○第2回研修会

・昨年度の課題の余暇支援について話し合う場を設定し、職員一人ひとりの思いについて共有した。

○第3回研修会

前半の部：進路部長の峰先生より舎生の就業体験の様子について話をいただき、今後の支援方針の参考となった。
後半の部：副校長より子どもたちとのコミュニケーションの取り方について話をいただいた。

(2) 事例研「あーだ・こーだ」への学級担任の参加

・学校担任や関係者への参加を呼びかけ、それぞれの環境での情報共有・支援の連携を図った。

(3) ライフサポートプラン(LSP)の情報共有

・昨年度の事例研後の学校担任向けアンケートにて「LSPの内容について知らなかった。」という回答が多くあった。そこで、寄宿舎での支援内容を学校担任と共有することを目的とし「まつら」フォルダへのLSPの盛り込みを提案した。

2. 今後に向けて

・現在の主題を設定してから取り組んできた、人との関わりの中で豊かな心を育む支援の充実とその取り組みについての評価を行う。